

9月10日(日)第二礼拝「赦しが可能か」 マタイ18章21-35節

ペテロが「兄弟が罪を犯した場合、七度まで赦すべきでしょうか」と質問した時、イエス様は「七度の七十倍するまで」と言われました。そして、イエス様は地上の王のたとえを語られました。ある王様のしもべには、一万タラント(労働者の約18万年分の賃金)の借金がありましたが、返済することができなかったので、王様はその借金を免除してくれました。ところが、そのしもべは、自分に百デナリ(約3か月分の賃金)の借金がある仲間を見つけると、「借金を返せ」と言って首をしめ、牢に入れてしまいました。一部始終を聞いた王様は、そのしもべが借金を全て返済するまで牢に入れるように命令しました。本文35節「あなたがたもそれぞれ、心から兄弟を赦さないなら、天のわたしの父も、あなたがたに、このようになさるのです。」ですから、他人を心から赦すことが重要です。

第一番目、人を心から赦すことが可能でしょうか。私達の本能、本性は人を赦すことができません。イエス様は「七度の七十倍するまで赦しなさい」と言われました。これは、私達はそもそも人を赦すことができない者なのだと、イエス様は示されたのです。神様の恵み無しには、私達は何もできないのです。会社、家庭、学校、友人関係の中で、私達はしばしば悔しい思いをし、傷つきます。もし私達が相手に復讐をするなら、表面的には解決したように見えますが、実際は解決していません。聖書はもっと根本的な解決策を教えています。本文のたとえの中の王様は神様です。人は神様から一万タラントの借金(はかりしれない罪)を免除されました。その永遠の赦しを通して、私達は百デナリの借金のある人(自分を傷つけた人や問題のある人)を赦すことができるのです。

第二番目、炎のような神様の目の前に立つことです。主の炎のような目、主の聖さと栄光の前で、私達がスキャンされる時、隠れた部分や、私達が生まれながらに御怒りを受けるべき罪人であることが明らかにされます。しかし、主の聖さに触れられる時、私たちの汚れはきよめられ、贖われ、主の恵みを体験することになります。(イザヤ6章参照)十字架を通して、私達のはかりしれない罪が赦されて、神様の大きな恵みを体験できるのです。また、主の恵みに目をとめ続けることで、人々の百デナリの問題にも勝利することができるのです。

第三番目、主の恵みを忘れてはいけません。詩篇103篇15「...我がたましいよ。主をほめたたえよ。主が良くしてくださったことを何一つ忘れるな。主は、あなたの全ての罪を赦し...」主の恵み(主の良くしてくださったこと、全ての罪を赦されたこと)を生涯忘れず覚えておくことが重要です。そうするならば、いつも喜ぶことができ、全てに感謝することができるのです。マタイ27:46 イエス様は十字架上で「エリ、エリ、レマ、サバクタニ(わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか。)」と叫びました。父なる神様は御子を捨てました。私達の罪が、天の家庭を破壊したのです。ここに大きな犠牲がありました。このことを決して忘れてはいけません。こんな大きな罪を赦して頂いた私達は、日々、主の恵みを覚えることで、百デナリの問題のある人を赦すことができるのです。アーメン！